

Data (2026年4月現在)

所在地 〒650-0046

兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2

スタッフ 加藤憲司(教授)、小坂素子(准教授)、
小路浩子(准教授)、小枝美由紀(講師)、
児嶋朱音(助教)、遠山紗織(助手)URL <https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/>

左から加藤、児嶋、遠山、小坂、小枝

神戸女子大学看護学部

地域・在宅看護学分野

History and Now

どのような機関なのでしょう？

国際都市・神戸に位置する本学は、2025（令和7）年に学園創設 85 周年を迎えました。学生一人ひとりを尊重する少人数教育を軸に、専門知識の習得だけでなく、自ら人生を切り拓く基盤となる力の育成を重視しています。

看護学部では、「自立心・対話力・創造性」を基盤とし、人々の生活に寄り添いながら健康を支える看護職の育成を目指しています。特徴的な「学びのグループゼミ」では、1～4 年次が共に学び、学年を超えた交流を通じて看護観を深めています。また、統合カリキュラムにより保健師や助産師、養護教諭など多様な進路に対応し、地域社会に貢献できる専門職を送り出しています。さらに、本学では地域の自治体や関係機関と連携しながら、教育・研究・社会貢献を一体的に推進しており、地域に開かれた大学として、これからの地域保健を担う人材の育成に取り組んでいます。

Education

どのような教育をしていますか？

私たち地域・在宅看護学分野は、コミュニティケアシステム領域に属し、地域で生活する人々の健康と生活を支える看護職の育成を目的とした教育を行っています。特徴は、1 年次から地域で暮らす人々の生活に目を向けた教育を行っている点です。「コミュニティケアシステム論」や「コミュニティ実習」を通して制度や社会資源、他職種役割を学び、生活を基盤とした看護の視点を育成しています。2 年次には退院後の生活を見据えた看

護技術演習、3 年次には「在宅看護論」「地域看護活動論」を通して個人・家族・地域を統合的に捉える力を養います。

保健師教育では地域包括ケアシステムを担う人材育成を視野に、地域診断演習や事例演習、地域住民との協働による学修を重視しています。さらに、対話とリフレクションを通して地域の健康課題を主体的に捉え、科学的に探究できる人材の育成に取り組んでいます。

Research

どのような研究をしていますか？

私たちの研究室では、あらゆる世代が住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりを探究しています。生活習慣病予防やデータサイエンスを活用した健康づくり、医療的ケア児と家族支援や多職種連携によるコミュニティケアシステムの構築、さらに保健師の人材育成と職業的アイデンティティ形成の研究を柱としています。現場の課題を科学的に捉え、地域共生社会の実現への貢献を目指しています。

Collaboration

保健活動の現場とのつながりは？

学生のフィールドワークとして地域の高齢者への健康教育を実施しています。また、県内新任保健師研修や現任保健師の実践研究支援、多職種連携研修の講師などを担い、現場の課題解決に取り組んでいます。さらに在宅看護専門看護師としての地域活動や地域・実習施設との共同研究を通して、教育・研究・実践の循環を大切に活動を展開しています。

ひとこと

本学の大学院は、オンライン授業や長期履修制度など、働きながら学べる環境を整えています。院生の多くは現役看護職であり、多様な領域の仲間との学びは新たな視点をもたらします。日々の実践で感じる「なぜ」を研究という形で見つめ直してみませんか。現場から生まれた問いこそが、次の実践を支える力になります。（小坂）